

**WebSphere® Adapters**

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for Flat  
Files ユーザーズ・ガイド**  
バージョン 7 リリース 0  
*Feature Pack 1*

**IBM**



**WebSphere® Adapters**

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for Flat  
Files ユーザーズ・ガイド**  
バージョン 7 リリース 0  
*Feature Pack 1*

**IBM**

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、35 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® WebSphere Adapter for Flat Files バージョン 7 リリース 0 モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** WebSphere® Adapters Version 7 Release 0 Feature Pack 1  
WebSphere Adapter for Flat Files User Guide  
Version 7 Release 0 Feature Pack 1

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.6

© Copyright IBM Corporation 2006, 2010.

---

## 目次

### WebSphere Adapter for Flat Files の資料

このリリースの新機能	1
ファイルの取得	1
ファイル分割	4
デプロイメントおよびランタイム・プロパティの設定	8

活動化仕様プロパティ	15
------------	----

### 特記事項

プログラミング・インターフェース情報	37
商標	37



---

## WebSphere Adapter for Flat Files の資料

WebSphere® Adapter for Flat Files では、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus の各モジュールの機能が提供されます。これにより、カスタム・ファイル対話のコーディングを行うことなく、ローカル・ファイル・システムのファイルと対話を行えます。

---

### このリリースの新機能

このバージョンには、アダプターのビジネス柔軟性、ユーザー・エクスペリエンス、およびパフォーマンスを向上させるためのさまざまな新機能が含まれています。

サポートされている他の機能に関する詳細な情報は、WebSphere Adapter for Flat Files インフォメーション・センター ([http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/stbp\\_ffa\\_welcome.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/stbp_ffa_welcome.html)) に記載されています。このサイトは、定期的に最新の情報に更新されます。

WebSphere Adapter for Flat Files は、以下の新機能をサポートしています。

- イベント・ディレクトリーでのファイル内容の変更の通知を受信。
- ファイルの終わりに付加されたファイル内容のみを送達。
- 特定の時間間隔においてイベント・ディレクトリー内で未変更のファイルをポーリング。

**注:** WebSphere Integration Developer では、1 つのバージョンのアダプターのみをワークスペースにインポートしてください。バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプターが使用できます。

ランタイム環境のアプリケーション (EAR) には、1 つのバージョンの組み込み RAR ファイル (バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプター) のみを含めるようにしてください。ノード・レベルがデプロイされたアダプターでも、1 つのバージョンのアダプターのみを組み込んでください。

---

### ファイルの取得

Inbound 処理中に、「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」または「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」プロパティーを使用して、ファイルの取得を管理できます。

「付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)」プロパティーを使用して、付加されたファイル内容のみを取得することもできます。

「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティーと「未変更ファイルのポーリングの時間間隔 (Time interval for polling unchanged

files)」プロパティは、相互に排他的なプロパティです。

## 最後に記録されたタイム・スタンプに基づくファイルの取得

「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティによって、アダプターは、前のイベント・ポーリングの後のポーリング周期中に、イベント・ディレクトリー内のファイル内容の変更の通知を受け取ることができます。アダプターは通知を受け取ると、イベント・ファイルを取得してエンドポイントに送達します。

このプロパティを構成した場合、アダプターは、既存の変更済みファイルと一緒に、最後のポーリング周期後にイベント・ディレクトリーに追加された新規ファイルを取得します。

このプロパティによって、アダプターは各ファイルの最終変更日時のタイム・スタンプに基づいてファイルの変更をモニターできます。アダプターの初回開始時には、すべてのイベント・ファイルがイベント・ディレクトリーからポーリングされて処理されます。アダプターは、イベント・ディレクトリーからポーリングされたいずれのイベント・ファイルも、イベント処理後に削除しません。

その後、次のポーリング周期中に、lastModifiedTimeStamp 値が変更されたイベント・ファイルのみがポーリング対象に選出されます。ファイルの lastModifiedTimeStamp が同じであれば、ファイルが変更されていないことを意味するため、ポーリング対象に選出されません。詳しくは、「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティの詳細を参照してください。

また、「付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)」プロパティを使用して、ファイルの終わりに付加されたファイル内容のみを送達するようにアダプターを構成することもできます。このプロパティは、外部サービス・ウィザードで「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティを選択したときに有効になります。

最終変更日時のタイム・スタンプ値が変更されていると、次のポーリング周期中に、アダプターはファイル内容に変更があるかどうかイベント・ファイルを調べます。アダプターがポーリング対象と見なしているファイル内容への変更は、付加されたビジネス・オブジェクトの形式になっています。付加されたビジネス・オブジェクトが存在する場合、アダプターはファイルを前のポーリングのファイル内容と比較することで、付加されたファイル内容のみを取得します。アダプターは、以前にポーリングした内容におけるビジネス・オブジェクトの総数と、現在のポーリングの内容におけるビジネス・オブジェクトの総数を使用して、比較を行います。ビジネス・オブジェクトの数が最後のポーリングと同じか、少ない場合には、いずれのビジネス・オブジェクトも処理しません。

以下のシナリオでは、アダプターがビジネス・オブジェクトをエンドポイントに送達するかどうかを決定する方法を示します。この例では、サンプル・カウントとして 3 つのビジネス・オブジェクトを使用します。シナリオでは、アダプターがイベント・ファイルでの新しい処理順序に基づいてビジネス・オブジェクトを処理する方法を示しています。

- 3 つのビジネス・オブジェクトの後に別のビジネス・オブジェクトが追加された場合、アダプターは 4 番目のビジネス・オブジェクトをエンドポイントに送達します。
- 2 番目のビジネス・オブジェクトが削除され、さらに 2 つのビジネス・オブジェクトが末尾に追加された場合、アダプターは最後のビジネス・オブジェクトのみをエンドポイントに送達します。変更された位置では、3 番目のビジネス・オブジェクトは新規ビジネス・オブジェクトですが、この場合は送達されません。
- 2 番目のビジネス・オブジェクトが削除され、新規ビジネス・オブジェクトが追加されていない場合、アダプターはエンドポイントに送達するためにイベント・ファイルをポーリングしません。さらに 2 つのビジネス・オブジェクトが末尾に追加されると、アダプターは両方のビジネス・オブジェクトをエンドポイントに送達します。
- 2 番目と 3 番目のビジネス・オブジェクトの間に 1 つのビジネス・オブジェクトが追加された場合、既存の 3 番目のビジネス・オブジェクトが再度エンドポイントに送達されます。
- 2 つのビジネス・オブジェクトが削除され、2 つの新規ビジネス・オブジェクトが追加された場合、アダプターはいずれのビジネス・オブジェクトもエンドポイントに送達しません。
- 2 番目のビジネス・オブジェクトが削除され、2 つの新規ビジネス・オブジェクトがその位置に追加された場合、既存の 3 番目のビジネス・オブジェクトが最後の位置になります。この構成によって、ビジネス・オブジェクトのカウントが増分され、アダプターは前の既存の 3 番目のビジネス・オブジェクトをエンドポイントに送達します。

**注:** サーバーがシャットダウン後に再始動されると、アダプターは、この間にエンドポイントに対して変更された、付加された内容も含むファイルの内容をすべてポーリングします。

詳しくは、「付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)」プロパティの詳細を参照してください。

**注:** 「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティを選択した場合、「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」、「参照によるファイルの受け渡し (File pass by reference)」、およびすべてのアーカイブ・プロパティを構成することはできません。

## 時間間隔に基づくファイルの取得

「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」プロパティは、指定された時間間隔におけるイベント・ディレクトリー内のファイルへの変更をモニターします。このプロパティを構成した場合、アダプターはその時間間隔中に変更されなかったファイルのイベント処理をポーリングします。指定された時間間隔において、現在編集でまだ保存されないファイルも、アダプターはポーリングします。イベントの処理中、保存されていない内容は処理されません。この構成により、誤った結果が発生しないようになります。

アダプターはディレクトリーをポーリングするときに、このプロパティを使用して、指定された時間間隔中にいずれかのイベントによってファイルが変更されたか

どうかを調べます。アダプターはファイルの `lastModifiedStamp` 値を使用して、時間間隔中にファイルが変更されたかどうかを判断します。

アダプターは、現在の状態の未変更のファイルと、最後に保存された状態から変更されたファイルを取得します。詳しくは、「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」プロパティの詳細を参照してください。

注: 「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)」プロパティを選択した場合、「ファイル変更の通知 (Notification for polling unchanged)」プロパティを構成することはできません。

---

## ファイル分割

イベント処理中のメモリー・ロードを削減するために、アダプターはファイル分割機能をオプションでサポートしています。この機能を使用する場合、アダプターは大きなイベント・ファイルを小さいチャンクに分割して、エンドポイントに別々に送ります。

アダプターは、ユーザーが `SplitCriteria` プロパティに指定した値に基づいて、大きなイベント・ファイルを複数のビジネス・オブジェクト (チャンクとも呼ばれる) に分割します。この値は、区切り文字またはチャンク・サイズとして指定できます。各ビジネス・オブジェクトは別々にエンドポイントに送達されます。ビジネス・オブジェクトのコンテンツが明確な構造を持つ場合 (例えば、名前、住所、市などの要素を持つ `customer` ビジネス・オブジェクトなどが該当) は、区切り文字を使用してファイルを分割できます。ビジネス・オブジェクトに含まれるのがプレーン・テキストまたはバイナリー・ファイルなどの非構造化データの場合、ファイルをサイズによって分割することもできます。

イベント・ファイルがそのようなチャンクに分割される場合は、それぞれのチャンクがビジネス・オブジェクトを作成します。すなわち、`PollQuantity` プロパティに指定した値と、エンドポイントに送達したビジネス・オブジェクトの数が、異なってもかまいません。区切り文字に基づいたファイル分割が有効な場合は、`PollQuantity` 活動化仕様プロパティにより、イベント・ストア内に存在する当該イベント・ファイルの数が指定され、`SplittingFunctionClassName` 活動化仕様プロパティでイベント・ファイルの分割に使用されるクラスが設定されます。

アダプターはチャンクに分けたデータの再組み立ては行いません。

`SplitCriteria` プロパティで指定する値によって、使用する方式が決まります。`SplitCriteria` プロパティのデフォルト値がゼロの場合、分割は行われません。分割を必要としない場合は、`SplitCriteria` プロパティおよび `SplittingFunctionClassName` プロパティの値を空のままにしておくこともできます。

オプションでカスタム・ファイルのスプリッター・クラスを指定できます。クラス名に `SplittingFunctionClassName` プロパティを設定してください。

## 区切り文字によるファイル分割

ファイル内のビジネス・オブジェクトを区切るために、コンマ (,)、セミコロン (;)、引用符 ("、')、中括弧 ({}), またはスラッシュ (/ ¥) などの 1 つ以上の文字 (区切り文字) が使用されている場合、アダプターは区切り文字に基づいて、ファイルを小さいチャンクに分割できます。それぞれのチャンクは、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus に転送されたときにビジネス・オブジェクトを作成するために使用される論理単位です。ファイルのビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字は、SplitCriteria プロパティに定義します。

区切り文字によるファイル分割で使用される PollQuantity 値の働きを示すため、2 つのイベント・ファイルについて考察します。第 1 のイベント・ファイルにはビジネス・オブジェクトが 1 つ、第 2 のイベント・ファイルにはビジネス・オブジェクトが 2 つあります。PollQuantity の値が 2 の場合、最初のビジネス・オブジェクトは第 1 のイベント・ファイルから、次のビジネス・レコードは第 2 のイベント・ファイルから、最初のポーリング周期で送信されます。第 2 のファイルの 2 番目のビジネス・オブジェクトは、次のポーリング周期で送信されます。

区切り文字の使用には、以下の規則が適用されます。

- 区切り文字内のすべての改行は、プラットフォーム固有の改行文字で示す。プラットフォーム固有の改行文字を表 1 に示します。

表 1. プラットフォーム固有の改行文字

プラットフォーム	改行文字
Macintosh	¥r
Microsoft® Windows®	¥r¥n
UNIX®	¥n

- 複数の区切り文字がある場合、それぞれの区切り文字はセミコロン (;) で分離する必要があります。区切り文字は、指定された順に突き合わせが行われます。セミコロンが区切り文字の一部である場合、¥; のようにしてエスケープする必要があります。例えば、区切り文字が ##¥;## の場合、##;## として処理されます。
- 区切り文字の一部であるコンテンツをスキップする場合、直前に 2 つのセミコロン (;;) を指定すると、区切り文字の間のコンテンツがスキップされます。例えば、以下の形式のビジネス・オブジェクトがイベント・ファイルに含まれていて、区切り文字が ##;\$\$\$ の場合、アダプターは ##\$\$\$ を区切り文字であると見なし、次に示すように「content skipped by the adapter」という語をスキップします。

```
Name=Smith  
Company=IBM  
##content skipped by the adapter$$$
```

- 区切り文字には任意の値を使用することができ、制限はありません。区切り文字は、有効なストリング、改行文字 (¥n など)、および区切り文字が複数ある場合はセミコロンの分離文字を組み合わせたものです。区切り文字に改行文字およびセミコロンが含まれていなくてもかまいません。改行文字が使用されるのは、ファイルのコンテンツを分割するときに改行文字が考慮される場合に限られます。有効な区切り文字の例は以下のとおりです。

- #####;¥n;¥n
- #####;\$\$\$\$;¥n;####

- %%%;\$\$\$\$;####
  - ¥n;¥n;\$\$\$\$
  - ####¥;####;¥n;\$\$\$\$
  - ¥n;¥n;¥n
  - ####;\$\$\$\$
  - ¥r
  - ¥r¥n
  - \$\$\$\$;¥r¥n
- 区切り文字がファイルの最後に配置された場合、SplitCriteria プロパティーは END\_OF\_FILE を使用して、ファイルの物理的な末尾を決定します。

一般的な区切り文字の形式を使用したシナリオの例を表 2 に示します。

表 2. 区切り文字の形式の使用

データ・バインディング	BO コンテンツ	推奨される区切り文字の形式
XML	<pre>&lt;?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?&gt; &lt;customer:Customer xsi:type="customer:Customer" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:customer="http://www.ibm.com/xmlns/prod/websphere/ j2ca/flatfile/customer"&gt; &lt;CustomerName&gt;Deepa&lt;/CustomerName&gt; &lt;Address&gt;IBM&lt;/Address&gt; &lt;City&gt;Bangalore&lt;/City&gt; &lt;State&gt;KA&lt;/State&gt; &lt;/customer:Customer&gt; ##</pre>	##;\n

## サイズによるファイル分割

SplittingFunctionClassName プロパティーで指定する値によって、ファイルがサイズで分割されるかどうかが決まります。SplittingFunctionClassName プロパティーを com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize に設定した場合、SplitCriteria プロパティーには最大ファイル・サイズをバイト単位で表す有効な数字が含まれている必要があります。イベント・ファイルが SplitCriteria プロパティーで指定した値よりも大きい場合、ファイルはチャンクに分割され、それぞれのチャンクはエンドポイントに別々に送られます。イベント・ファイルが SplitCriteria の値よりも小さい場合、イベント・ファイル全体がエンドポイントに送られます。

イベント・ファイルがチャンクに分割されると、それぞれのチャンクがビジネス・オブジェクトとなります。すなわち、PollQuantity プロパティーに指定した値と、エンドポイントに送達したビジネス・オブジェクトの数が、異なってもかまいません。アダプターは PollQuantity の値に従ってポーリングを行います。実際にはファイル内のビジネス・オブジェクトは一度に 1 つずつ処理します。例えば、イベント・ファイルが 3 つのチャンクに分けられた場合、1 つのファイルがポーリングされて 3 つのビジネス・オブジェクトがエンドポイントに送達されます (それぞれのチャンクが 1 つのビジネス・オブジェクトを作成しているため)。

「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティーを使用する場合、イベント・ファイルのサイズは分割チャンクの倍数にする必要があります。例えば、イベント・ファイルに 90 バイトが含まれる場合、分割サイズは 15、6、3、または 2 のいずれかにできます。

イベント・ファイルが分割チャンクの倍数になっておらず、最後のビジネス・オブジェクトが分割サイズよりも小さかった場合、アダプターは最初のイベント・ポーリング時に、最後のビジネス・オブジェクトをエンドポイントに正確に送達します。新しいコンテンツがイベント・ファイルに追加された場合、「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」プロパティーが True として指定されていると、更新されたビジネス・オブジェクトのうち分割サイズよりも小さいものは、新しいコンテンツをエンドポイントに一切送信しません。この構成のサンプル・シナリオ (コンテンツが 2 バイト単位で分割されている) について、以下の例で説明します。

コンテンツ「ABCDE」が 2 バイト単位で分割されていて、最後のビジネス・オブジェクトに「E」のみが含まれるようになっていて、アダプターはコンテンツ「AB」、「CD」、および「E」を、最初のイベント・ポーリング時にエンドポイントへ送達します。次のイベント・ポーリング時に、

- コンテンツが「ABCDEF」に変更された場合、コンテンツは「AB」、「CD」、および「EF」に分割され、アダプターはコンテンツ「AB」、「CD」、および「E」をエンドポイントに送達します。
- コンテンツが「ABCDEFG」に変更された場合、コンテンツは「AB」、「CD」、「EF」、および「G」に分割され、アダプターはコンテンツ「AB」、「CD」、「E」、および「G」をエンドポイントに送達します。

**注:** 1 つのイベント・ファイル内に複数の失敗したビジネス・オブジェクトがあり、サイズによるファイル分割が使用可能な場合は、.original 拡張子の付いたイベント・ファイルのみがアーカイブされます。アダプターは、.fail 拡張子の付いたファイルを指定されたアーカイブ・ディレクトリーに保管しません。

エンドポイントでは、アダプターはチャンク・データを単一ファイルに再組み立てませんが、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus でこれらを単一ファイルに再組み立てできるように、チャンクについての情報を提供します。チャンク情報は FlatFileInputStreamRecord レコードの ChunkFileName プロパティーに組み込まれ、バイト単位のチャンク・サイズおよびイベント ID が含まれます。チャンクのイベント ID は、eventFileLocation/\_timestampStr/\_MofN の形式を使用します (M は現在のチャンク番号、N は総チャンク数)。イベント ID は、次の例のようになります。

```
C:%flatfile%eventdir%eventfile.in/_2005_01_10_10_17_49_864/_3of5
```

(timestampStr は year\_month\_day\_hour\_minutes\_seconds\_milliseconds の形式になります)。

---

## デプロイメントおよびランタイム・プロパティの設定

エンタープライズ情報システム (ローカル・ファイル・システム) との Outbound または Inbound 通信でご使用のモジュールを使用することを決定した後、エクスポート用の Inbound イベント処理構成情報を保持する活動化仕様プロパティを構成する必要があります。

### 始める前に

このセクションでプロパティを設定するには、その前にアダプター・モジュールを作成しておく必要があります。これは、WebSphere Integration Developer ではアダプター・プロジェクトの下に表示されます。アダプター・プロジェクトの作成について詳しくは、[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/cbp\\_ffa\\_esd.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/cbp_ffa_esd.html)を参照してください。

### このタスクについて

活動化仕様プロパティを設定するには、以下の手順に従います。このトピックに記載されているプロパティについて詳しくは、15 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

### 手順

1. 「処理方向の選択」ウィンドウで「**Inbound**」を選択して、「次へ」をクリックします。

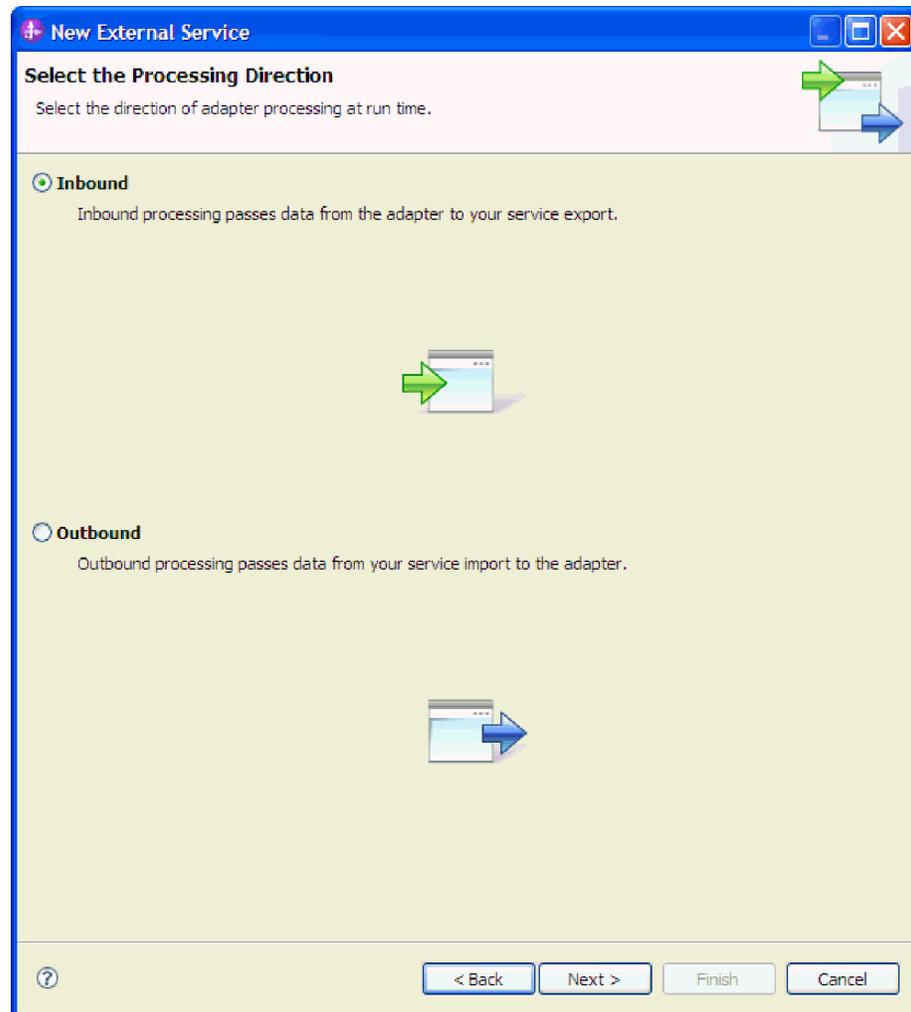


図 1. 外部サービス・ウィザードでの *Inbound* または *Outbound* の選択

2. 「セキュリティーおよび構成プロパティの指定」ウィンドウの「コネクター・プロジェクトのデプロイ」フィールドで、「単一アプリケーションが使用するモジュールとともにデプロイする」を選択します。
3. 「セキュリティーおよび構成プロパティの指定」ウィンドウで、モジュールの活動化仕様プロパティを定義します。このウィンドウに表示されるプロパティについて詳しくは、15 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。

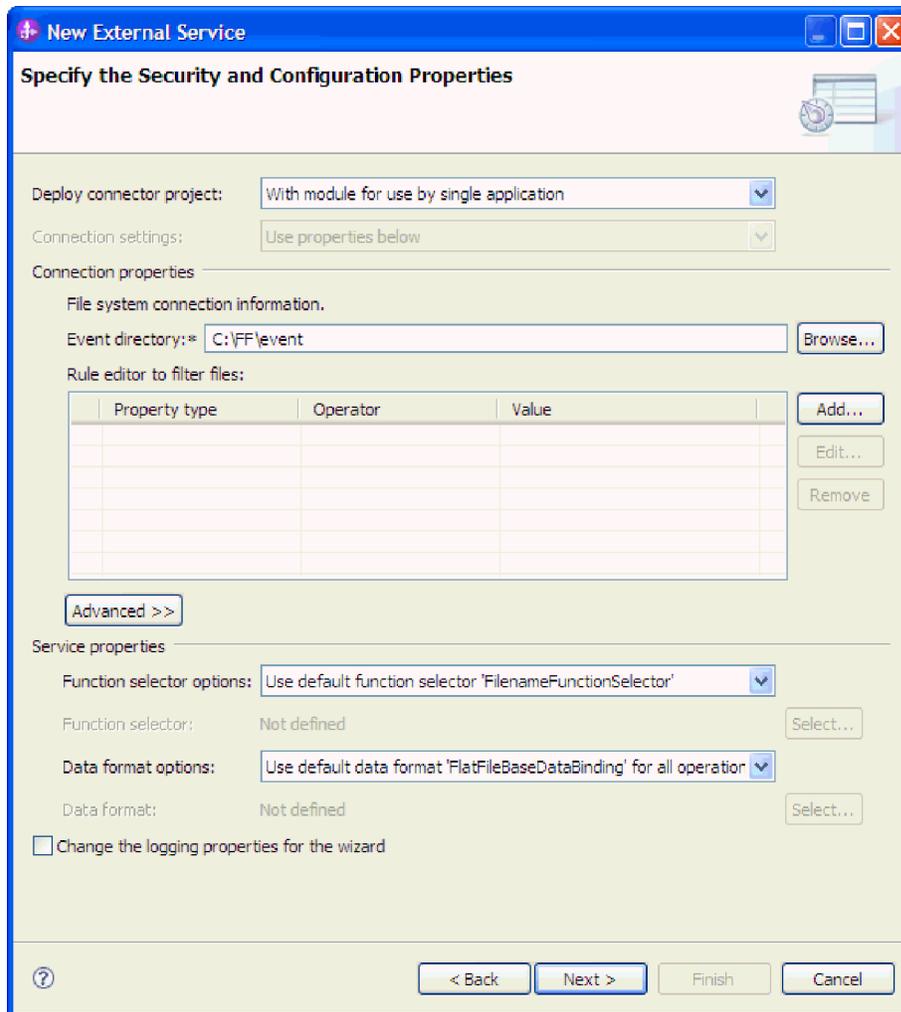


図 2. 接続プロパティの設定

4. 「イベント・ディレクトリー」フィールドで、イベント・ファイルの保管先となるローカル・ファイル・システムのディレクトリーを指定します。
5. 「拡張」をクリックして、「イベント・ポーリング構成」、「イベント送達構成」、「イベント・パーシスタンス構成」、「追加構成」、「ファイル・アーカイブ構成」、「BiDi プロパティ」、および「ロギングおよびトレース」の各セクションを展開し、追加プロパティを指定します。
  - a. オプション: 「イベント・ポーリング構成」セクションで、「開始時に EIS 接続を再試行する」を選択します。このプロパティを選択すると、アダプターは、始動時に接続に失敗したシステムへの接続を継続して試行します。詳しくは、30 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)』を参照してください。

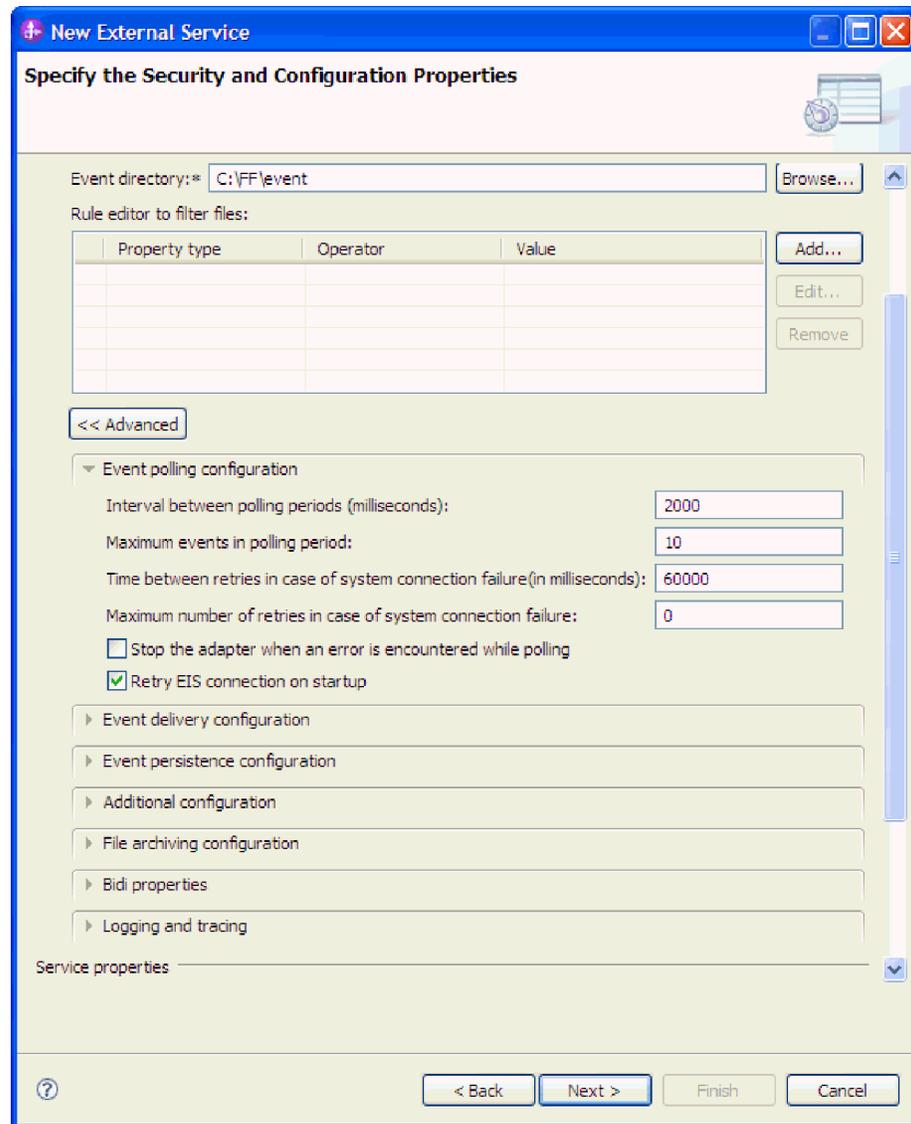


図3. 「開始時に EIS 接続を再試行する」チェック・ボックスの選択

- b. オプション: 「ファイル・アーカイブ構成」セクションで、「ファイル変更の通知 (Notification for file changes)」または「未変更ファイルのポーリング時間間隔 (ミリ秒) (Time interval for polling unchanged file (in milliseconds))」のいずれかのフィールドを使用して、ファイルを取得する条件を設定できます。これらのプロパティについて詳しくは、15 ページの『活動化仕様プロパティ』を参照してください。
- c. オプション: 「追加構成」セクションで、「ファイル内容のエンコード」フィールドの値を選択します。バイナリー・イベント・データを処理する場合は、「BINARY」を選択します。テキストや XML などのバイナリー以外のイベント・データを処理する場合は、UTF-8 (デフォルト値) などの有効なファイル・エンコード方式の値に設定します。
- d. オプション: アダプターの複数インスタンスがある場合は、「ロギングおよびトレース」を展開し、このインスタンスに固有の値を「アダプター ID」フィールドに入力します。このプロパティについて詳しくは、

[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/rbp\\_ffa\\_in\\_resource\\_adapter\\_props.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/doc/rbp_ffa_in_resource_adapter_props.html)を参照してください。

- e. ログあるいはトレースに特定の情報を表示しないよう情報をマスクする必要がある場合は、「**ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する**」を選択します。
  - f. オプション: ログ・ファイルの出力先を指定したり、このモジュールのロギング・レベルを定義したりするには、「**ウィザードのロギング・プロパティを変更します (Change logging properties for wizard)**」チェック・ボックスを選択します。ロギング・レベルの設定については、[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/env/shared/tsha\\_config\\_log\\_properties.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/env/shared/tsha_config_log_properties.html)を参照してください。
6. 「**関数セクター**」フィールドでは、デフォルトの関数セクター構成を使用するか、新しい構成を作成するかを選択します。
    - a. 関数セクター構成を作成するには、「**新規**」をクリックします。
    - b. 「**新規関数セクターの構成**」ウィンドウで、「**次へ**」をクリックします。
    - c. 使用可能な関数セクターのリストから、必要な関数セクターを選択します。

**注:** 関数セクターによって、サービスの正しい操作に対して着信メッセージまたは要求が割り当てられます。

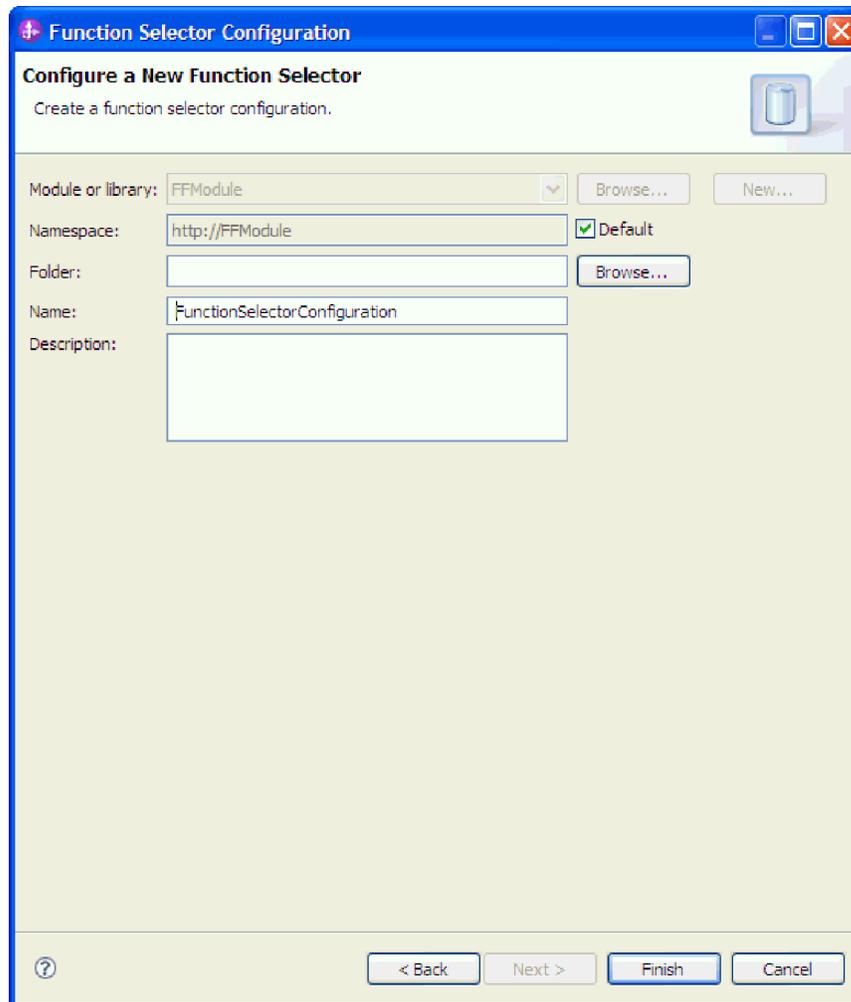


図 4. 関数セレクトター構成の作成

**注:** エンタープライズ情報システム (EIS) 関数名は、外部サービス・ウィザードでは使用できません。アダプター (基底クラス) で生成されるデフォルト以外の値を指定する場合、アセンブリー・エディターを使用してその値を編集することができます。

7. ルールを構成して **Inbound** イベント・ファイルをフィルター処理するには、「ルール・エディター」テーブルで、「追加」または「編集」をクリックします。ルールは、「プロパティ・タイプ」、「演算子」、および「値」という名前の 3 つのパラメーターで構成されます。

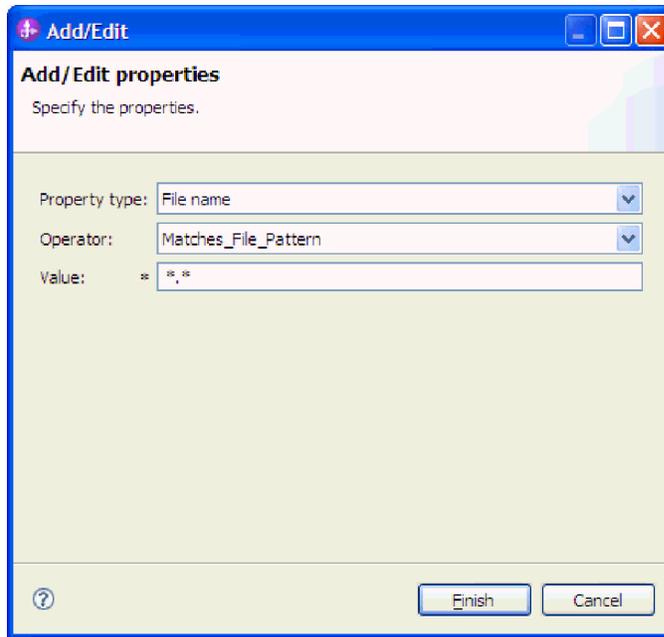


図5. ルールの追加または編集

- a. 「プロパティ・タイプ」リストから、以下の任意のメタデータのフィルター・プロパティ・タイプを選択します。
  - FileName
  - FileSize
  - Directory
  - LastModified
- b. 「演算子」リストから、プロパティ・タイプに使用する演算子を選択します。各プロパティ・タイプ・メタデータごとに独自の演算子があります。
  - 1) FileName には以下の演算子があります。
    - Matches\_File\_Pattern (パターンに一致)
    - Matches\_RegExp (正規表現に一致)
  - 2) FileSize メタデータには、以下の演算子があります。
    - Greater than
    - Less than
    - Greater than or equal to
    - Less than or equal to
    - Equal to
    - Not equal to
  - 3) Directory には、演算子として Matches\_RegExp があります。
  - 4) LastModified メタデータには、以下の演算子があります。
    - Greater than
    - Less than
    - Greater than or equal to
    - Less than or equal to

- Equal to
  - Not equal to
- c. イベント・ファイルをフィルター処理するための値を、「値」列に入力します。Matches\_RegExp 演算子の値には、有効な Java™ 正規表現を入力する必要があります。

複数のルールを構成する場合は、「プロパティ・タイプ」リストの各ルールに対して「END-OF-RULE」オプションを選択してください。

注: ルールは、プロパティ・フィールドで「END-OF-RULE」が選択されている場合を除き、論理 OR 演算子を使用してグループ化されます。式 (単一のルール、または OR 演算子によってグループ化された複数のルールを式にできます) の間で「END-OF-RULE」が選択されている場合は、論理 AND 演算子を使用してグループ化されます。例えば、ルール A (FileName) とルール B (FileSize) を論理 OR 演算子を使用してグループ化し、「END-OF-RULE」オプションを選択した場合、この式は、AND 演算子を使用して別のルール C (LastModified) とグループ化されます。これは、((A) OR (B)) AND (C) のように表すことができます。

詳しくは、34 ページの『ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター』を参照してください。

8. 「終了」をクリックします。

## タスクの結果

アダプターにより活動化仕様プロパティが保存されます。

## 次のタスク

モジュールのデータ・タイプと、選択したデータ・タイプに関連付ける操作の名前を指定します。

---

## 活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、エクスポート用の Inbound イベント処理の構成情報を保持しています。活動化仕様プロパティは、外部サービス・ウィザードまたは管理コンソールのいずれかを使用して設定します。

以下に示す活動化仕様プロパティはバージョン 6.1.0 からは必要なくなりましたが、旧バージョンとの互換性のためにサポートされています。

- ArchivingProcessed
- DefaultObjectName
- EventContentType

以下の表は、Inbound 通信の活動化仕様プロパティを示しています。外部サービス・ウィザードを使用して活動化仕様プロパティを設定します。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターを使用してデプロイメント前に変更することも、WebSphere Process Server 管理コンソールを使用してデプロイメント後に変更することもできます。

各プロパティの詳細については、表の後のセクションで説明します。後続セクションのプロパティ詳細表の見方について詳しくは、[http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/shared/rsha\\_in\\_interpret\\_prop\\_details.html](http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.ff.doc/shared/rsha_in_interpret_prop_details.html)を参照してください。

表 3. 活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
18 ページの『アーカイブ・ディレクトリー』	ArchiveDirectory	アダプターが処理済みのイベント・ファイルをアーカイブするディレクトリー。
(なし)	ArchivingProcessed	非推奨
19 ページの『自動作成イベント・テーブル』	EP_Create Table	イベント・パーシスタンス・テーブルを自動的に作成するか手動で作成するかを決定する。
19 ページの『イベント・パーシスタンス・プロパティの双方向変換』	EP_BiDiFormat	アダプターがイベント・パーシスタンス・プロパティのいずれかを交換するかどうかを決定する。
(なし)	DefaultObjectName	非推奨
送達タイプ	DeliveryType	イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。
イベントを一度のみ送達する	AssuredOnceDelivery	アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されるかどうかを指定します。
20 ページの『データベース・スキーマ名』	EP_SchemaName	イベント・パーシスタンス処理によって使用されるデータベースのスキーマ名。
(なし)	EventContentType	非推奨
21 ページの『イベント・ディレクトリー』	EventDirectory	イベント・ファイルが保管されるディレクトリー。
22 ページの『イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名』	EP_DataSource_JNDIName	JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるデータ・ソースの JNDI 名。このデータ・ソースは、WebSphere Process Server に作成する必要があります。
22 ページの『イベント・リカバリー・テーブル名』	EP_TableName	イベント・パーシスタンス処理にアダプターが使用するテーブルの名前。
処理するイベント・タイプ	EventTypeFilter	どのイベントをアダプターが配信するかをアダプターに示す、区切り文字で区切られているイベント・タイプのリスト。
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、この回数に達すると失敗とマークされます。

表 3. 活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
23 ページの『アーカイブ用の障害ファイル拡張子』	FailedArchiveExtension	処理に失敗したビジネス・オブジェクトを入力イベント・ファイルにアーカイブするのに使用するファイル拡張子。このプロパティは、SplitByDelimiter ファイル分割基準が使用されている場合のみ適用されます。
24 ページの『ファイル内容のエンコード』	FileContentEncoding	アダプターによって読み取られるファイルのエンコード方式。
24 ページの『アーカイブ用のファイル拡張子』	OriginalArchiveExtension	オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするのに使用するファイル拡張子。
ファイル変更の通知 (Notification for file changes)	FileChangeNotification	最後に記録されたタイム・スタンプ以降に変更されたファイルを、アダプターがポーリングするかどうかを指定する。
未変更ファイルのポーリングの時間間隔 (Time interval for polling unchanged files)	FileUnchangedTimeInterval	アダプターが、指定された時間間隔中に変更されていないファイルのみを取得するかどうかを指定する。
25 ページの『ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む』	IncludeEndBO Delimiter	SplitCriteria プロパティで指定された区切り文字の値が、さらに処理を行うためにビジネス・オブジェクトの内容と一緒に送信されるかどうかを指定する。
ポーリング期間の間隔	ポーリング間隔	ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さ
システム接続に失敗した場合の最大再試行回数	RetryLimit	エラーの発生後に、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数。
27 ページの『付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)』	ProcessFileAppendedContent	最後にポーリングされたファイル内容と比較して、付加されたファイル内容のみを処理して送達するかどうかを指定する。
28 ページの『内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し』	FilePassByReference	アダプターがファイルの内容をエクスポートに送達するかどうかを指定する。
28 ページの『イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード』	EP_Password	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるパスワード。
ポーリング数量	ポーリング数量	各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数

表 3. 活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
29 ページの『イベント・ディレクトリー内のサブディレクトリーのポーリング』	PollSubDirectories	アダプターが、イベント・ディレクトリー内のサブディレクトリーをポーリングするかどうかを指定する。
29 ページの『ソート順でのファイルの取得』	SortEventFiles	ポーリングされたイベント・ファイルのソート順。
30 ページの『パターンを使用したファイルの取得』	EventFileMask	イベント・ファイル用のファイル・フィルター。
開始時の接続の再試行	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に ローカル・ファイル・システム に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)	RetryInterval	Inbound 操作時にエラー発生後、新規接続を確立しようとする試行と次の試行の間にアダプターが待機する時間の長さ
31 ページの『ファイル内容を分割するための基準の指定』	SplitCriteria	イベント・ファイル内でビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字か、またはイベント・ファイルの最大サイズ。「分割機能クラス名 (Splitting Function Class Name)」に設定した値によってどちらか決まります。
32 ページの『関数クラス名の分割』	SplittingFunctionClassName	イベント・ファイルの分割方法 (区切り文字またはサイズ) を指定する。
33 ページの『ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』	StopPollingOnError	ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。
33 ページの『アーカイブ用の成功ファイル拡張子』	SuccessArchiveExtension	処理に成功したビジネス・オブジェクトをアーカイブするのに使用するファイル拡張子。
33 ページの『イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名』	EP_UserName	データ・ソースから JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるユーザー名。
ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター	ruleString	イベントのフィルター処理に使用されるルールのコレクション。

## アーカイブ・ディレクトリー

このプロパティでは、アダプターが処理済みのイベント・ファイルをアーカイブするディレクトリーを指定します。

表4. 「アーカイブ・ディレクトリー」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	WebSphere Application Server 環境変数を使用して、アーカイブ・ディレクトリーを示すことができます。環境変数の名前を中括弧で囲み、前に \$ 記号を付けて指定します。例えば、 <code>\${ARCHIVE_DIRECTORY}</code> のようになります。この資料の環境変数の作成に関するトピックを参照してください。 注: PassByReference が True に設定されている場合、アーカイブ・ディレクトリーの場所を入力する必要があります。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## 自動作成イベント・テーブル

このプロパティーでは、イベント・パーシスタンス・テーブルを自動的に作成するか手動で作成するかを決定します。

表5. 「自動作成イベント・テーブル」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	この値を True に設定すると、アダプターはイベント・パーシスタンス・テーブルを作成します。この値を False に設定した場合、アダプターはテーブルを作成せず、ユーザーが手動でテーブルを作成する必要があります。
グローバル化	いいえ

## イベント・パーシスタンス・プロパティーの双方向変換

このプロパティーは、アダプターがイベント・パーシスタンス・プロパティーのいずれかを変換するかどうかを決定します。

表6. イベント・パーシスタンス・プロパティーの双方向変換

必須	いいえ
使用可能な値	VRYNN など、ストリング値を指定できます。
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String

表 6. イベント・パーシスタンス・プロパティの双方向変換 (続き)

使用法	イベント・パーシスタンス双方向形式プロパティ (EP_BiDiFormat) に設定した値により、双方向変換が決定されます。 VRYNN などのストリング値を指定して、イベント・パーシスタンス・プロパティの双方向変換を有効にできます。EP_BiDiFormat プロパティを指定しないと、アダプターはヌル値を表示します。 <b>注:</b> 双方向変換は、値が双方向コンテキスト・エンタープライズ情報システム (EIS) プロパティに設定されているイベント・プロパティのみ行うことができます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	はい

## データベース・スキーマ名

このプロパティでは、イベント・パーシスタンス処理によって使用されるデータベースのスキーマ名を指定します。

表 7. 「データベース・スキーマ名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## 送達タイプ (DeliveryType)

このプロパティでは、イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。

表 8. 送達タイプの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ORDERED UNORDERED
デフォルト	ORDERED
プロパティ・タイプ	String
使用法	以下の値がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ORDERED: アダプターは、一度に 1 つのイベントをエクスポートに配信します。</li> <li>UNORDERED: アダプターは、一度にすべてのイベントをエクスポートに配信します。</li> </ul>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## イベントを一度のみ送達する (AssuredOnceDelivery)

このプロパティでは、Inbound イベントに対して、「イベントを一度のみ送達する」の機能を提供するかどうかを指定します。

表9. 「イベントを一度のみ送達する」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは1回のみ配信されます。値を False にすると、1回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合にのみ使用されます。そうでない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## イベント・ディレクトリー

このプロパティでは、イベント・ファイルが保管されるローカル・ファイル・システムのディレクトリーを指定します。

表10. 「イベント・ディレクトリー」の詳細

必須	はい
デフォルト	なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	WebSphere Application Server環境変数を使用して、イベント・ディレクトリーを示すことができます。環境変数の名前を中括弧で囲み、前に \$ 記号を付けて指定します。例えば、 <code>\${EVENT_DIRECTORY}</code> のようになります。この資料の環境変数の作成に関するトピックを参照してください。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名

このプロパティーでは、JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるデータ・ソースの JNDI 名を指定します。

表 11. 「イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	このデータ・ソースは、WebSphere Process Server に作成する必要があります。データベースを使用せずにイベント・ポーリングを有効化するには、この値を空のままにします。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## イベント・リカバリー・テーブル名

このプロパティーでは、イベント・パーシスタンス処理にアダプターが使用するテーブルの名前を指定します。

表 12. 「イベント・リカバリー・テーブル名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	複数の活動化仕様インスタンスが使用されるとき、この値は活動化仕様インスタンスごとに固有である必要があります。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## 処理するイベント・タイプ (EventTypeFilter)

このプロパティーには、どのイベントをアダプターが配信するかをアダプターに示す、区切り文字で区切られているイベント・タイプのリストが入っています。

表 13. 「処理するイベント・タイプ」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ビジネス・オブジェクト・タイプ のコンマ (,) 区切りのリスト
デフォルト	NULL
プロパティー・タイプ	String
使用法	イベントは、ビジネス・オブジェクト・タイプ別にフィルタリングされます。このプロパティーを設定すると、アダプターは、リスト内に存在するイベントのみを配信するようになります。値が null の場合は、フィルターが適用されず、すべてのイベントはエクスポートに配信されることを示しています。

表 13. 「処理するイベント・タイプ」の詳細 (続き)

例	Customer ビジネス・オブジェクトおよび Order ビジネス・オブジェクトに関連するイベントのみを受信するには、値: Customer,Order を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## 失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 14. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p><b>デフォルト</b> このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p><b>0</b> アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p><b>&gt; 0</b> 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p><b>&lt; 0</b> 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## アーカイブ用の障害ファイル拡張子

このプロパティでは、処理に失敗したビジネス・オブジェクトを入力イベント・ファイルにアーカイブするのに使用するファイル拡張子を指定します。イベント・ファイル内に失敗したビジネス・オブジェクトがあり、区切り文字によるファイル分割が使用可能な場合にのみ、このプロパティが適用されます。

表 15. 「アーカイブ用の障害ファイル拡張子」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	fail

表 15. 「アーカイブ用の障害ファイル拡張子」の詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	String
使用法	.fail 拡張子の付いたイベント・ファイルは、SplitByDelimiter をファイル分割基準として指定した場合にのみアーカイブされます。SplitBySize をファイル分割基準として指定した場合、.fail 拡張子の付いたファイルはアーカイブされません。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## ファイル内容のエンコード

このプロパティでは、アダプターによって読み取られるファイルのエンコード方式を指定します。

表 16. 「ファイル内容のエンコード」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	UTF-8
プロパティ・タイプ	String
使用法	Java でサポートされているエンコード・セット (UTF-8 など) を指定できます。 FileContentEncoding プロパティを指定しない場合、アダプターはデフォルトのシステム・エンコード方式を使用します。  アダプターでバイナリー・イベント・データを処理する場合は、このプロパティを BINARY に設定します。アダプターがテキストや XML などのバイナリー以外のイベント・データを処理している場合は、このプロパティを UTF-8 などの有効なファイル・エンコード方式の値に設定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## アーカイブ用のファイル拡張子

このプロパティでは、オリジナル・イベント・ファイルをアーカイブするのに使用するファイル拡張子を指定します。

表 17. 「アーカイブ用のファイル拡張子」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	original
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティでは、いずれかのビジネス・オブジェクトの処理が失敗した場合に、イベント・ファイル全体を参照用に保持します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## 最後に記録されたタイム・スタンプに基づくファイルの取得

このプロパティは、最後に記録されたタイム・スタンプ以降に変更されたファイルをアダプターがポーリングするかどうかを指定します。

表 18. ファイル変更の通知 (Notification for file changes)

必須	いいえ
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティによって、アダプターは最後に記録されたタイム・スタンプ以降にファイルが変更されたときに、イベント・ディレクトリーからファイルを取得できます。このプロパティを選択すると、アダプターは前のイベント・ポーリング後のポーリング周期ごとに、新規ファイルと変更済みファイルをポーリングします。また、アダプターはいずれのイベント・ファイルもイベント・ディレクトリーから削除しません。 注: アダプターは、指定されたアーカイブ・ディレクトリーにいずれのファイルもアーカイブしません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## 時間間隔に基づくファイルの取得

このプロパティでは、アダプターが、指定された時間間隔中に変更されていないファイルのみを取得するかどうかを指定します。

表 19. 未変更ファイルのポーリング時間間隔 (Time interval for polling unchanged file)

必須	いいえ
デフォルト	0
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティによって、アダプターは、指定された時間間隔の間にイベント・ディレクトリーで変更されていないファイルのみを取得できます。このプロパティを選択すると、アダプターはポーリング周期中に未変更のファイルを取得します。アダプターは、現在編集集中のファイルもポーリングしますが、ファイルの最終保存時に存在するファイル内容のみを取得します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む

このプロパティでは、さらに処理を行うために SplitCriteria プロパティで指定された区切り文字の値がビジネス・オブジェクトの内容と一緒に送信されるかどうかを指定します。

表 20. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False

表 20. 「ファイル内容にビジネス・オブジェクト区切り文字を組み込む」の詳細 (続き)

デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティを true に設定すると、さらに処理を行うために SplitCriteria プロパティで指定された区切り文字の値がビジネス・オブジェクトの内容と一緒に送信される。このプロパティは、イベント・ファイルの分割が区切り文字に基づく場合、つまり、SplittingFunctionClassName プロパティが com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter に設定されている場合のみ有効です。 注: このプロパティは、内容の終了 BO 区切り文字を処理できるカスタム・データ・バインディングと一緒に使用する必要があります。これを XMLDataHandler と一緒に使用すると、データ・バインディング・レベルで障害が発生します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## ポーリング期間の間隔 (ポーリング間隔)

このプロパティでは、ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さを指定します。

表 21. 「ポーリング期間の間隔」の詳細

必須	はい
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	ポーリング期間は一定の割合で確立されます。つまり、ポーリング周期の実行が何らかの理由で遅延すると (例えば、前のポーリング周期が完了するまでに予想より時間がかかった場合)、遅延によって失った時間を取り戻すために次のポーリング周期がすぐに開始されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## ポーリング期間内の最大イベント数 (ポーリング数量)

このプロパティでは、各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数を指定します。

表 22. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細

必須	はい
デフォルト	10
プロパティ・タイプ	Integer

表 22. 「ポーリング期間内の最大イベント数」の詳細 (続き)

使用法	値は 0 より大きくする必要があります。この値を大きくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が増加し、アダプターのパフォーマンス効率が低下する場合があります。この値を小さくすると、ポーリング期間ごとに処理されるイベントの数が減少し、アダプターのパフォーマンスが若干向上することがあります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## 付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)

このプロパティーでは、最後にポーリングされたファイル内容と比較したときに、ファイルの終わりに付加されたファイル内容のみを処理して送達するかどうかを指定します。

表 23. 付加されたファイル内容の通知 (Notification for appended file contents)

必須	いいえ
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティーを選択すると、アダプターは前のポーリング内容と比較したときに、ファイルの終わりに付加されたビジネス・オブジェクト (データ) のみを処理して送達します。イベント・ファイルに含まれるビジネス・オブジェクトの数が最後のポーリングと同じか、少ない場合、ファイルはエンドポイントへの送達用に処理されません。 注: このプロパティーを有効にすると、アダプターはファイルのアーカイブや削除を一切行わなくなります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## システム接続を再試行する回数 (RetryLimit)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数を指定します。

表 24. 「システム接続を再試行する回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 および正の整数
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	Integer

表 24. 「システム接続を再試行する回数」の詳細 (続き)

使用法	このプロパティーは、アダプターが ローカル・ファイル・システム に接続して Inbound 処理を実行できない場合に、接続を再試行する回数を指定します。値が 0 の場合は、再試行回数が無制限になることを指定します。  アダプターの当初始動時に、ローカル・ファイル・システム に接続できない場合、アダプターが再試行するかどうかを制御するには、RetryConnectionOnStartup プロパティーを使用します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## 内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し

表 25. 「内容ではなくファイル名およびディレクトリーのための受け渡し」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティーを True に設定すると、アダプターは常にファイルをアーカイブし、ディレクトリー名とファイル名をエンドポイントに送信します。ただし、アダプターはファイルの内容は読み込みません。イベント・ファイルにはタイム・スタンプが付加され、アーカイブ・ディレクトリーにアーカイブされます。例えば、a.txt がイベント・ファイルである場合、このファイルは a.txt.yyyy_MM_dd_HH_mm_ss_SSS としてアーカイブ・ディレクトリーにアーカイブされます。さらに、COBOL または XMLDataHandler の場合、イベント・ファイルは a.txt.yyyy_MM_dd_HH_mm_ss_SSS.original ファイルにアーカイブされます。 注: このプロパティーが True に設定されており、アーカイブ・ディレクトリーが指定されていない場合、アダプターは例外をスローします。このプロパティーは、コンテンツが設定されていない場合に実行時に失敗しないカスタム・データ・バインディングと一緒に使用できますが、パススルー・シナリオでも使用できます。このプロパティーを XMLDataHandler と一緒に使用すると、データ・バインディング・レベルで障害が発生します。これは、XMLDataHandler が、ファイル名とディレクトリーのパスに加えてコンテンツがあることを予期するためです。
グローバル化	いいえ

## イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード

このプロパティーでは、データ・ソースからの JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるパスワードを指定します。

表 26. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるパスワード」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## イベント・ディレクトリー内のサブディレクトリーのポーリング

このプロパティーは、アダプターがイベント・ディレクトリー内のサブディレクトリーをポーリングするかどうかを指定します。

表 27. 「イベント・ディレクトリー内のサブディレクトリーのポーリング」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティーを True に設定すると、アダプターにより、イベント・ディレクトリー内のファイルと、またそのサブディレクトリー内のファイルもポーリングされます。このプロパティーを False に設定すると、アダプターにより、ルート・ディレクトリー内のファイルのみがポーリングされ、すべてのサブディレクトリーは無視されます。</p> <p>ポーリング周期中は、アダプターにより、まずルート・ディレクトリー内のファイルがポーリングされ、その後にサブディレクトリー内のファイルがポーリングされます。SortEventFiles プロパティーに設定されている値を基準にソートされ、PollQuantity プロパティーに設定されている値に従って処理されます。その後、ビジネス・オブジェクトがダウンストリーム・コンポーネントに送信されます。</p> <p>PollSubDirectories プロパティーが True に設定され、アーカイブが使用可能になっていると、サブディレクトリーからポーリングされたファイルを含め、ポーリングされたすべてのファイルがアーカイブ・ディレクトリーにアーカイブされます。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## ソート順でのファイルの取得

このプロパティーでは、ポーリングされたイベント・ファイルのソート順を指定します。

表 28. 「ソート順でのファイルの取得」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	File name - ファイル名で昇順にソートする Time stamp- 最終変更日時のタイム・スタンプで昇順にソートする No sort- ソートなし
デフォルト	No sort
プロパティー・タイプ	String
使用法	グローバル化をサポートする目的で、ファイル名のソート機能はシステム・ロケールに応じて提供されます。ICU4J パッケージを使用してロケールおよびロケールに対応した規則を追跡します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## パターンを使用したファイルの取得

このプロパティーでは、イベント・ファイル用のファイル・フィルターを指定します。

表 29. 「パターンを使用したファイルの取得」の詳細

必須	はい
デフォルト	*.*
プロパティー・タイプ	String
使用法	ファイル・フィルターは正しく修飾された有効な正規表現で、英数字とワイルドカード文字「*」を使用できます。*、例えば event* と指定すると、event で始まる名前のファイルのみが処理されます。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

## 開始時に EIS 接続を再試行する (RetryConnectionOnStartup)

このプロパティーは、アダプターが始動時に ローカル・ファイル・システム に接続できない場合に、再度接続を試みるかどうかを指定します。

表 30. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティーは、アダプターの始動時に、ローカル・ファイル・システム に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アダプターが、ローカル・ファイル・システム に対する接続を確立できたかどうかに関するフィードバックを直ちに必要とする場合、例えば、アダプターからのイベントを受信するアプリケーションを作成し、テストしている場合は、このプロパティーを False に設定します。アダプターが接続できない場合、アダプターは、ログおよびトレース情報を書き込んで、停止します。管理コンソールは、アプリケーション状況を Stopped と表示します。この場合、接続の問題を解決後、手動でアダプターを始動してください。</li> <li>接続に関するフィードバックをすぐに必要としない場合は、このプロパティーは True に設定します。アダプターが始動時に接続できない場合、アダプターはログおよびトレース情報を書き込んでから、RetryInterval プロパティーで再試行の頻度を判別して再接続を試み、RetryLimit プロパティーの値で指定された値に達するまで、再試行を複数回行います。管理コンソールは、アプリケーション状況を Started と表示します。</li> </ul>
グローバル化	いいえ

表 30. 「開始時に EIS 接続を再試行する」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

## 接続が失敗した場合の再試行間隔 (RetryInterval)

このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。

表 31. 再試行間隔の詳細

必須	はい
デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。このプロパティーでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが新規接続を確立しようとするまで待機する時間の長さを指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

## ファイル内容を分割するための基準の指定

このプロパティーでは、イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字またはイベント・ファイルの最大サイズのいずれかを指定します。

表 32. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	String

表 32. 「ファイル内容を分割するための基準の指定」の詳細 (続き)

<p>使用法</p>	<p>このプロパティーでは、イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字またはイベント・ファイルの最大サイズを指定します。このプロパティーの値は、<code>SplittingFunctionClassName</code> プロパティーに設定された値によって決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>SplittingFunctionClassName</code> プロパティーが <code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter</code> に設定されている場合は、<code>SplitCriteria</code> プロパティーに、イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字が含まれている必要があります。</li> <li>• <code>SplittingFunctionClassName</code> プロパティーを <code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize</code> に設定した場合、<code>SplitCriteria</code> プロパティーには最大ファイル・サイズをバイト単位で表す有効な数字が含まれている必要があります。イベント・ファイルのサイズがこの値よりも大きい場合、イベント・ファイルはこの値のチャンクに分割され、そのチャンクの数を送られます。イベント・ファイルのサイズがこの値よりも小さい場合、イベント・ファイル全体が送られます。</li> </ul> <p><code>SplitCriteria</code> プロパティーの値を 0 に設定すると、ファイル分割が無効になります。</p> <p><b>注:</b> <code>Inbound</code> パススルー・シナリオ中に、ファイルの分割がサイズに基づく場合、<code>FilePassByReference</code> プロパティーが使用可能な場合、イベント・ファイルはチャンクに分割されません。</p> <p><b>注:</b> 複数の <code>COBOL</code> コピーブック・レコードを格納する入力ファイルの場合、サイズ指定でファイルを分割できるようにするには、それぞれのレコードの正しい長さを指定する必要があります。それぞれのレコードのサイズを判別するには、次の方法を使用してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス・オブジェクトをテキスト・エディターで開きます。</li> <li>2. 名前属性にビジネス・オブジェクト名の値が指定されている複合タイプのタグを探します。以下の例では、ビジネス・オブジェクト名は <code>DFHCOMMAREA</code> です。</li> <li>3. <code>aggregateInstanceTD</code> と呼ばれるネーム・スペースが付加されたタグを探し、属性 <code>contentSize</code> の値を使用します。この例では、値は 117 です。この値が、タイプ <code>DFHCOMMAREA</code> の各レコードのサイズです。</li> </ol> <pre>&lt;complexType name="DFHCOMMAREA"&gt;   &lt;annotation&gt;     &lt;appinfo source="http://www.ibm.com/cam/2005/typedescriptor"&gt;       &lt;td:typeDescriptorCT&gt;         &lt;td:aggregateInstanceTD accessor="readWrite" attributeInBit="false"           contentSize="117" offset="0" size="117"&gt;</pre>
<p>グローバル化</p>	<p>はい</p>
<p>BIDI 対応</p>	<p>はい</p>

## 関数クラス名の分割

このプロパティーでは、イベント・ファイルの分割方法を決定します。

表 33. 「関数クラス名の分割」の詳細

<p>必須</p>	<p>いいえ</p>
<p>使用可能な値</p>	<p><code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitByDelimiter</code>            ファイルは、イベント・ファイル内のビジネス・オブジェクトを分離する区切り文字に基づいて分割されます。</p> <p><code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize</code>            ファイルは、イベント・ファイルのサイズに基づいて分割されます。</p>
<p>デフォルト</p>	<p><code>com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize</code></p>

表 33. 「関数クラス名の分割」の詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	String
使用法	区切り文字またはファイル・サイズは、SplitCriteria プロパティで設定します。 注: EventContentType プロパティが NULL の場合、SplittingFunctionClassName プロパティは com.ibm.j2ca.utils.filesplit.SplitBySize に自動的に設定されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

### ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)

このプロパティでは、ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。

表 34. 「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティを True に設定した場合、アダプターはエラーを検出するとポーリングを停止します。  このプロパティを False に設定した場合、アダプターはポーリング時にエラーを検出すると例外をログに記録し、ポーリングを続行します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

### アーカイブ用の成功ファイル拡張子

このプロパティでは、処理に成功したビジネス・オブジェクトをアーカイブするのに使用するファイル拡張子を指定します。

表 35. 「アーカイブ用の成功ファイル拡張子」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	success
プロパティ・タイプ	String
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

### イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名

このプロパティでは、データ・ソースからの JDBC データベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用されるユーザー名を指定します。

表 36. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

### ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

このプロパティーは、一定のルール・セットに基づいてイベント・ファイルをフィルター処理する場合に使用されます。

表 37. ファイルをフィルターに掛けるルール・エディター

必須	任意指定
デフォルト	なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	Inbound 処理時に、ルール・テーブルの値が指定されている場合、指定されたルールに基づいてフィルター処理後、イベント・ファイルを取り出してから、これらのイベント・ファイルのポーリングを行います。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502  
神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Department 2Z4A/SOM1  
294 Route 100  
Somers, NY 10589-0100  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関するすべての記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。「(c) (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (c) Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

### 警告:

診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org>) により開発されたソフトウェアが含まれています。







Printed in Japan